

# 会 議 録

## 1 会議の名称

第2回 上越市総合計画審議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

会長挨拶（公開）

議事（公開）

ア 基本構想（骨子案）について

イ 基本計画の前提条件について

その他（公開）

## 3 開催日時

平成19年1月26日（金）午後2時00分から午後4時00分まで

## 4 開催場所

上越市役所4階 401会議室

## 5 傍聴人の数

4人

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委員：渡邊隆、村椿正子、粟生田友子、秋山三枝子、浅倉有子、飯塚春枝、市村幸晴（高田河川国道事務所長代理）、大堀幸子、小田武彦、春日清美、熊田まり子、佐久間亜紀、佐藤修、志村喬、田中昭平、田中弘邦、中西アキ、西田行男、野本幸、保坂昭、松嶋敏一、村山秀幸、森田弘彦（30人中23人出席（うち代理出席1人））

・事務局：高橋企画政策課長、池田企画政策課副課長、中澤係長、太田係長、小池主任、笹川主任、内海主任、渡来主任

## 8 発言の内容【要旨】

会長挨拶

（渡邊会長）：第2回目の審議会となる。今年に入って上越市らしくない暖かい正月が続いていて何よりである。一方、本日の審議は上越市にとって大変に深

刻な内容である。今後の議論の方向を定めていく重要な部分であるので、委員の皆さんのご協力をよろしくお願いしたい。

## 議事

### ア 基本構想（骨子案）について

（渡邊会長）：議事に入る。次第（１）の基本構想（骨子案）について、まず、基本的事項について事務局から説明を受けたい。

（池田副課長）：資料に基づき、事務局の各担当者から順番に説明させていただく。

上越市第５次総合計画（改定版）の検討スケジュール（予定）について…資料 1

上越市第５次総合計画（改定版）の構成イメージについて…資料 2

（池田副課長）： - 資料 1、資料 2に基づき説明 -

- ・資料 1は、総合計画の各目次を縦軸に、開催日程と検討内容を横軸に整理したものであり、その審議がどのような過程を経て議論いただくかを示したものである。
- ・資料 2は、資料 3へのつなぎの資料として、基本構想の施策の大綱、まちづくり重点戦略、あるいは地域別構想についての関連をイメージ図で示したものであり、それぞれの関連性を相互に確認しながら進めていきたいと考えている。

上越市第５次総合計画（改定版）・基本構想に係る検討フローについて…資料 3

（内海主任）： - 資料 3、資料 3-1に基づき説明 -

- ・資料 3、資料 3-1について、膨大な資料をお配りしているが、今回はいきなり計画案を提示するのではなくて、意味のある言葉づくり、論理的な思考で作っていききたいと考え、あえて検討の手順をすべて提出させていただいた。各資料の意図する所、審議いただきたいポイントを説明させていただく。
- ・資料 3の１番から４番までの白いボックスは、上越市を取り巻く環境、上越市の歴史と特性、直面する課題、取組方向であり、計画策定の前提条件となるものである。水色の部分が基本構想、緑色の部分が基本計画に該当する。
- ・矢印は検討の手順を示しており、赤い点線が引っ張ってあるが、そ

の点線の上の部分今回お示しする箇所になる。なお、5番の将来都市像と基本理念、6番の施策大綱については、市民会議から提案いただいた素案があり、当然その内容は十分踏まえているが、総合計画は市の仕事の拠り所となる計画でもあるため、そうした視点からの記述を追加している。

- ・4番の取組方向を出すにあたっては、青線の課題解決プロセスと緑線の理想追求プロセスの双方から検討を行った。4番から下に3つの矢印が伸びているが、それぞれ地域別アプローチ、分野別アプローチ、戦略的アプローチと名付けている。
- ・真ん中の分野別アプローチは、取組方向を目的ごとに分類し、目的と手段の関係を体系的に示すものである。右側の戦略的アプローチは、上越市の目玉となる重要プロジェクトであり、分野別の取組を補い、各取組を横系でつなぎスクラムを組んでいきたいという趣旨である。
- ・まちづくり重点戦略を中心とした検討プロセスのイメージとしては、資料 3-1を一例としてご覧いただきたい。
- ・本日は、資料 3の計画の土台となる1番から3番の白いボックスの部分の3ページから14ページについて、ご意見をいただきたい。
- ・また、後半の将来都市像、施策の大綱、まちづくり重点戦略は、あくまでも今回の参考として、素案、たたき台として挙げているので、表現の良し悪しよりは、どういった内容、どういった考え方をすべきか、様々な角度から発散的にご意見、アドバイスをいただければ幸いである。

(渡来主任): - 資料 3-2、資料 3-3、資料 3-4に基づき説明 -

- ・資料 3-2は、時代の潮流という括りで3ページから6ページに書かせていただいた。これまでの工業社会と言われた時代、IT革命という出来事、私たちの生活を変えてきた情報化社会を経て、21世紀は知識社会になると言われているが、こうした変化を社会、経済、環境という3つの観点からコンパクトにまとめさせていただいた。参考として市民の声アンケートの概要も掲載している。

- ・資料 3-3は、上越市の歴史・特性として7ページから11ページに上越市の全体の成り立ちや地域の基盤を踏まえながら、今日の課題にどう対応していくかを考えるという意味でまとめている。
- ・資料 3-4では、上越市が直面する課題として12ページから14ページに整理させていただいた。
- ・ここには、既に上越市の課題として認識されているものもあれば、今後、総合計画の期間中10年の間に予測される課題もある。個別の事業レベルではなく、比較的大きな市の課題かつ最近より強く認識されてきた課題をまとめたものであるとお考えいただきたい。
- ・課題の整理のイメージについては14ページの図のとおりである。
- ・こうした問題を整理するとき、市の中の課題、市の外との関係の課題、あるいは市全体に共通する課題、地区のそれぞれの課題、あるいは比較的緊急性が高い課題、長期的で着実な取組が必要な課題などいろいろな分け方があるが、様々な時代の潮流を受けて市のレベルで捉えるような内容は大体一通りこのイメージ図の中に入れて考えることができるのではないかとということをご理解いただき、新たな視点や課題の捉え方があればご意見をいただきたいと思っている。

(内海主任): - 資料 3-5、資料 3-6、資料 3-7に基づき説明 -

- ・15ページから20ページのA3の資料については計画の内容に入ってくるが、今日の段階ではキーワードという形でしか挙げていない。本日のご意見をもとに次回以降に文章化していきたいと思っている。
- ・まず、資料 3-5の基本理念・将来都市像を表すキーワードについて、その定義を確認させていただくと、基本理念とは、まちづくりを進める上で大切にしたいこと、ポリシーである。将来都市像とは、最終的に目指すまちの姿ということである。
- ・役割としては、市の基本的な姿勢を端的に広く示すものであり、当然に各分野の計画を作る際の拠り所にもなるため、言葉遊びに終わることなく、上越市の歴史性やまちづくり重点戦略とのつながりが

含まれているのかどうかを検討していきたいと考えている。

- ・皆様からはキーワードへのご意見やこれ以外のキーワードがあれば是非お願いしたいと思っている。
- ・資料 3-6の 16 ページ以降は先ほどの戦略的アプローチであり、市として重点的に取り組んでいくまちづくり重点戦略の作成過程を示した表である。
- ・横軸に健康・社会福祉、教育・文化、産業経済、生活・環境、都市整備などの分野を取っているが、各分野で抱えている主な課題について、対処療法的な取組と言えるものを（マル）で、抜本的な取組と考えられるものを（二重マル）で示し、（二重マル）の取組をさらに下のほうに展開させている。皆様から各分野の課題や取組を見ていただき、こうしたことも抜本的な対策としてあるのではないかというところをご指摘いただきたい。
- ・こうした形で各分野について突き詰めて課題を考えながら、それを横に並べて比較し、この取組とこの取組を一緒に行えば非常に効果的であるということを横に引っ張り、右側のまちづくり重点戦略を導き出している。
- ・まちづくり重点戦略については 17 ページ以降の資料 3-7のとおり 5 つを仮にお示しする。1 番目としては「コミュニティ内の交流」として、地域ぐるみの子育て、福祉、防災、スポーツとか、最近NHKで「ご近所の底力」という番組があるが、そうした取組を強めていくことが1つのキーワードになると考えて挙げている。
- ・2 番目としては、「市内の交流・循環」として、特に市内の中で農村と市街地の循環を挙げた。これは環境、農業などの面からも市街地と農山村が対立するのではなく、仲良くやっていくことは上越市が強くなる秘訣ではないかと考えているためである。
- ・3 番目に「市外との交流」。これは観光ということも含め、上越市のファンになってくれる人を増やそうということである。
- ・また、それを支える基盤ということを 2 つ考えた。1 つは 4 番目の「体系的な学習の基盤づくり」。これまでの歴史等を考えると、上

越市は教育の素養があり、学べる資源も多いため、これを活かしてまちをつくっていくという考えである。

- ・もう一つ、5番目の「体系的な都市基盤づくり」については、中心市街地や公共交通を活性化して、歩いて暮らせて賑わいのあるまちをつくっていくべきであるという考えである。以上、素案として大きく5つ挙げさせていただいたが、こちらの内容についても、アドバイスをいただければと思っている。

( 笹川主任 ): - 資料 3-8に基づき説明 -

- ・資料 3-8は、施策の大綱の基本的な考え方、方向性をご審議いただきたくための資料であり、体系図という形でお示した。
- ・これは基本計画における施策の体系を想定し、施策の大綱を中項目レベルで執筆するにあたっての目指すべき方向性の素案であり、目的と個別事業いわゆる実施方法、手段との関係をつなげたものである。また、先ほどの課題解決のプロセス、理想追求のプロセスで取組方向を見出したというご説明をしたが、それを共通の重点ポイントとして、いわゆる政策分野別に整理させていただいたものである。
- ・資料のとおり、7つの分野を設定しているが、「自立・共生」と「行財政」という2つの分野は他の分野にも関係するあらゆる政策、施策に共通する政策のプラットフォームといったような意味合いで捉えている。
- ・検討にあたっては、市民会議から提示いただいた素案をベースに検討を始め、一方で全体の論理構成のフローの中で社会経済情勢、地域を取り巻く課題の分析を行い、その分析結果から課題の本質を改めて精査し、突合した結果として素案の内容を一部修正している。
- ・あわせて、体系図の大項目と中項目には、基本目標、基本方針として、仮にはあるが、その目指すべき方向性、目標を言葉として書いている。
- ・これについてはその言葉遣いよりは、むしろ意味合いを伝えやすい言葉の形で出しており、精査は今後させていただくが、次回、施策の大綱を具体的な形で提示したいとも考えているので、大綱の中身

が何を狙ってどのような方向で施策を打っていくのか。その関係性や目指すべき方向が適切かどうか。視点として抜け落ちがないかご審議いただきたい。

(渡邊会長): これから議論の進め方について提案する。まず、資料 1を見ると審議の流れがよく分かるが、本日、上越市を取り巻く情勢やいろいろなデータを踏まえながら審議し、3月のピンク色部分のとおり、第1章、第2章、第3章、第4章については、次回決定に持っていく。本日はそのための議論であることを認識いただきたい。

- ・先ほど事務局から資料 3から資料 3-8までの説明があったが、特に資料 3-2、資料 3-3、資料 3-4の資料については、これからの議論の前提に係る内容であり、上越市全体を基本的に理解するキーワードになっている部分である。そのため、まず、この3つの資料についてご質問やご意見をいただき、その後、資料 3-5以降の資料について、1つずつ分けてご意見を伺いたいと思う。なお、各資料で議題が移った時に皆さんからご意見をいただく際のポイントをご案内する。そういう形で審議を進めさせていただきたい。
- ・まず、上越市を取り巻く環境、上越市の歴史・特性、それから現在直面している課題について、ご意見、ご質問をいただきたい。

(森田委員): 上越市を取り巻く環境というタイトルになっているが、実際に記述されている中身は取り巻くものではなくて、上越市自身の事柄が相当述べられている。取り巻く環境となると上越市を除いた周りのことを私はイメージしてしまうが、他の委員の皆様はいかがか。

(渡邊会長): 森田委員から取り巻く環境の書き方についてのご意見があったが、同調のご意見あるいは別の解釈などあれば発言願いたい。事務局側からも何か答えはあるか。

(池田副課長): 今ほどのご意見の趣旨は十分に理解できたので、次回までにそのことを含めて整理していきたい。

(渡邊会長): 他にいかがか。

(志村委員): 少し細かいかも知れないが、実は資料 3-3の自然環境のところ、豪雪地の例として板倉の柄山の8mの話が出ているが、もう少し広

い意味で考えて、上越というのは都市として雪が降るということで、非常に著名であり、独特の文化、生活がある。私は地理教育に関わっているが、いわゆる高田測候所の3mの記録は教科書レベル等で使われており、これは都市の1つのテーマに成り得る話なので、そういう雪国都市みたいな捉え方ができないか。その辺が少し薄いのではないかという印象を持った。

(渡邊会長): 今の志村委員のご意見に対して他に関連のご質問やご意見はあるか。人口が何万人以上のまちでの豪雪ということに意味があるという解釈でよいか。

(志村委員): かつ、それが都市として成立しているということである。

(渡邊会長): 理解した。他にいかがか。

(保坂委員): 資料 3-4の13ページの8「地域の教育力低下、人材の育成」の2番目の点に背景として様々な要因が考えられるとした文中に、「高齢者の増加によってコミュニティを営む基盤が脆弱になった結果」とあるが、高齢者の増加によってコミュニティの基盤が脆弱になったとは考えにくい。私ども老人クラブの会員は子供達に伝承活動、見回り活動、安全安心の活動を行い、コミュニティのために一生懸命に活動している。何かほかの原因、例えば、家庭の教育力の低下。あるいは人間関係の希薄化ということが原因でコミュニティがだんだん壊れてきているのではないか。

(渡邊会長): 只今のご意見について、いかがか。確かに今、高齢者の方と子供達がどれくらいコネクションするかは大きな課題であり、まちぐるみでそうした動きはかなり見られる。ご指摘のとおりこの表現は少々不適當と思われるので事務局は検討されたい。その他に何かあれば発言願いたい。

(佐久間委員): 資料 3-4の13ページの7「体感治安の低下」について、点の下から3番目に近年の上越市の犯罪発生状況について、「犯罪件数自体は減っているが、犯罪の質が変化しつつあると言われている」と書いてあるが、具体的に犯罪件数が市内でどのような状況なのか。その質、内容が本当に変化しているかどうかのデータ提示は可能か。犯罪の



悪質化に対応しなければいけないという場合と、犯罪自体は減り安全になってきたが、人々の不安感が増しているという場合では、対応すべき課題が違うのではないかと。

(渡邊会長): 事務局でデータを用意できるか。

(池田副課長): 次回にご提示させていただく。

(佐久間委員): 付け加えて、全国レベルとの比較があればお願いしたい。つまり上越市が全国レベルに比べて安心ならば、「上越市は安全です」ということをアピールしつつ、「不安感が増している時代の状況にあるので、上越市はこんな対応を持ちます」という形がよいのではないかと。

(渡邊会長): 次回までにデータと合わせてその点を事務局から整理していただくこととする。

(大堀委員): 少し戻るが、資料 3-1 の 3 の直面する課題(分野別)の一番上に「不健康な人の増加」とあり、 に「高齢化の進展による病気の増加」とあるが、先日も高校生が糖尿病で亡くなったという新聞記事があり、高齢者だけでなく若い人の健康を心配している。保育園から小学校、中学校にかけて、体が満足に育っているか。病気の可能性が高まっていないかを把握することが大切である。もし資料等あれば提示され、課題として追加いただきたい。

(渡邊会長): 杉田委員からご意見をいただきたいところであるが、本日欠席されているので、事務局から資料等について準備いただきたい。それでは資料 3-1 から資料 3-4 については、基本のご意見いただいた内容でまとめていくこととし、資料 3-5 から各論的にポイントを絞って審議を進めていきたい。

・資料 3-5 は基本理念や将来の都市像を表現するキーワードについて、素案として挙げられているが、このキーワードで十分なのかどうか非常に重要な問題である。ご質問、ご提案を受けたい。

(保坂委員): 資料 3-5 の 15 ページの「多様性の再認識と活用」の中に、「上越市は 1 つの『テーマパーク』と形容できる。あるいは共通テーマを設定する必要がある。」となっているが、私もいろいろ考えてみたがなかなか難しいと思った。現在どのようなことを考えているか聞

きたい。

(渡邊会長): それでは今段階でどのようなことをイメージしているか。事務局からお答えいただく。

(内海主任): まだ内部で揉んでいる途中であり、具体的には次回お示ししたいと思っているが、内部の議論では上越市の中にはいろいろなものが揃っていて、例えば、若い人がディズニーランドのようにすべてが楽しめて、満喫して帰っていただけるのではないか。それをどう表現できるかはまだ分からない。本日は提案レベルであることをご理解いただきたい。

(渡邊会長): テーマパークはいろいろなところで全部潰れている。私もこのキーワードを見た時、内容はともかく、キーワードとしてよいのかどうか検討が必要と感じた。

(浅倉委員): 今の部分に多分関係するが、「交流都市、出会いのまち」の記述に、文化をイコール「環境の文化」と「もてなしの文化」としているが、その辺の意味づけを教えてください。

(内海主任): 第1回審議会の資料として配布した新市建設計画のまちの将来像に「海に山に大地に なりわいと文化あふれる」という表現があり、その説明の中に文化とは、上越市が自然を通じて培ってきた生活文化、環境の文化という記述がある。もう1つ、人の気質として非常に人に優しい、親切であるという文化、もてなしの文化という記述があり、それらを取り入れている。新市建設計画の17ページ、18ページをご覧ください。

(渡邊会長): 新市建設計画の定義はそうになっているが、皆さんの議論により付加的なものがあればそれはそれでよいと考える。次回、事務局から17ページ、18ページの解釈を示していただき、もう一度ご議論いただく形にしたいと思う。他にあるか。それでは資料 3-6についてご意見いただきたい。

(浅倉委員): 先ほどの質問と関係するが、資料 3-6の取組方向の教育・文化分野に「歴史・文化的資源の活用(新たな価値の創出)」と書いてあるが、これは非常によい単語だと思った。しかし、それが施策の大綱・体

系図になると、あまり活かされていないような気がする。

・歴史・文化的資源の活用は、例えば「観光振興による外貨獲得」と「交流」など、まちづくり全部にリンクしてくる事業だと思うが、結構内向きの印象を覚える。地産地消についても地域の特産品は十分に魅力的な観光資源になると思うが、素案では何か内向きの印象を持った。

(渡邊会長): 確かにそのように感じる。事務局に検討をお願いする。他にご意見あれば発言願いたい。

(田中昭平委員): 資料 3-6の教育・文化分野について、非常に何か線の細い抽象的な言葉になっていると感じた。教育は、学校教育、社会教育の双方向に立った教育の追及である。あるいは青少年教育は学校、地域、家庭の双方がみ合った総合的視点に立った教育の追求が必要である。資料では、学校教育が中心に書かれているが、教育はもう学校教育だけではなく、全市民が生涯学習に参加したり、地域のコミュニティづくりに意欲的に学習参加することが大切である。

・人口が減少し、上越市の地域社会が人的構成からして非常に深刻な状態に向かう中、地域やコミュニティを単なる経済的な1つの仕組みの中で構成するのではなく、住民の学習力をつけることによって、地域コミュニティの現状を打開していくことも重要な課題である。

・それから先般、「安全安心まちづくりの条例」ができたが、この条例の戦略と総合計画をどのように関連付けているのか。条例の中身がこういう中に本当に活かされているのかどうか。せっかく条例が出来たのだから、上越市が「ああ、ここは素晴らしい。安心感の持てるよい地域だ」と言われるような地域づくりが重要であると考える。

(渡邊会長): 只今のご意見は非常に重要な視点だと思う。教育というと学校教育に限られるものではないので、そうした視点を持って今後の議論をしていきたいと思う。他に何かあるか。

(熊田委員): 資料 3-6の生活・環境分野について、課題に「公害・ごみの適正な処理」。「環境負荷の削減(予防型)」と書かれているが、もっと緊迫感を感じなくてはいけないくらい市民の間近に近づいている問題だ

と思っている。3 R。リデュース、リユース、リサイクルの活動を市民挙げて参加できるようなものを織り込んでみてはいかがか。そうした面がこの中では少し弱くインパクトが無いような気がする。

(小田委員): 資料 3-6の取組方向の中で、実は最近になって大きなことが抜けていることに気づいた。今回の資料にもあるように人口減少の問題、かつ深刻なのは若年層が抜けているという問題である。この問題に対して、どう取り組むかという視点があまり見えていない。元掛川市長の榛村さんは、都会における生涯学習と地方における生涯学習は全く違うと言っている。人口減少は一番深刻な問題であり、これは地域間競争である。上越の魅力を考えた場合、今いる若い人達が学校を出た後、戻って住みたいと思うまちをどうやって作っていくか。その視点をもう一度考えていただきたい。

(渡邊会長): 今のご指摘も非常に重要な部分であり、おそらく上越市の一番根本的な課題、中核都市としての大きな課題なのかもしれない。

- ・これまで各委員から、資料 3-6の上の理想的な追求に挙がっている部分から下の解決型の部分にピックアップした項目について、具体的な視点の弱さについて指摘があった。それから根本的に人口減少という大きな前提がある中でまちづくりの基本をどうしたらいいのか。逆に言うと、理想に向かうためのポイントを挙げてほしいという意見だと受け止めている。

- ・次に資料 3-7について、ご意見をいただきたい。まちづくりの重点戦略の素案ということであるが、戦略の切り口について、どのように考えるか。あるいは今後の検討にあたって欠けている点やキーワードはこれでいいのかという点でご意見いただければと思う。いかがか。

(春日委員): 先ほどの意見に関連した意見であるが、人口減少という点で見ると、まさに高校卒業した時点で大量に減っている。やはり上越には学校が少ない。4年制の大学も必要であるが、専門学校が少ないため、近場の新潟市、あるいは関東、関西に大量に子供達が出て行き、一度出てしまとなかなか戻ってこない現状がある。若者を引き留める教育の場が必要である。

- ・それから、団塊世代の人たちが大量にいて、都会の人たちが田舎を求めているという声も聞かれる。現に山間地域のほうでは、安塚区など古屋を提供している例がある。それをいち早く上越市が安い価格で住みよい場所だということをPRして、県外の方からたくさん入ってもらい、地元の子供たちとの交流を深め、知恵を吸収していけば素敵なまちになるのではないかと考える。

(渡邊会長): 只今のような、特に若年、青年たちが出て行き、そのまま定着しないという悩みは多いと思われる。よく分かった。

- ・続いて、資料 3-8については、全体的なことを表しているので総合的な討論になるが、ご意見いただければと思う。また、今まで各論的に議論してきたが、全体を通して落としていたことやこれは是非というご意見があれば、総括的に今お受けしたいと思う。いかがか。

(小田委員): それではもう一度、資料 3について、分野別アプローチと戦略的アプローチという説明があったが、地域別アプローチとの関連についての考えをもう少しお聞きしたい。

(渡邊会長): 事務局から仕組みについて補足説明願いたい。

(池田副課長): 資料 2を合わせてご覧いただきたい。地域別アプローチの点については、それぞれの地域、具体的には合併前の上越市をいくつか分け、また、それぞれの地域自治区ごとに構想を示したいと考えている。

- ・ただし、それぞれの地域を別個に考えていくのではなく、全体の土地利用の考え方、あるいは今ほどご審議いただいた取組方向から導き出される施策の大綱、あるいは横軸のまちづくり重点戦略。こうしたものを地域別に落とし込み、そこで導き出された事業を具体的に落とし込んでいくということになる。

- ・従って、地域別構想でそれぞれの地域のあり方やこういう地域にしていきたいという考え方と、それぞれ分野別に必要な事業がうまく縦横合うような形で最後は収めていきたい。

- ・そういう意味において、地域がそれぞれ独自にやる事業については当然全体の流れがあって、それぞれの土地利用あるいはその地域の課題を踏まえた上で、地域別の各地区の施策の方向、具体的な事業

を整理していきたいと考えている。

(小田委員): それではお願いであるが、13区には地域協議会があるので、この総合計画の改定作業について事務局から説明できる範囲内でご説明いただきたい。今、地域協議会には地域別構想の話だけ出てきて、地域協議会の委員の皆さんは何の事が分からない状況になっている。

(池田副課長): 現在の進め方としては、まず、それぞれの地域で、地域のあり方、自分たちの地域をどのようにしていきたいのかをまとめていただいた上で、全体の流れと整合させていくという手順で考えているが、小田委員のご意見はもっともであり、そのような状況や必要があればお邪魔してお話させていただきたいと思う。

(渡邊会長): 基本的には合併前の上越市については現行の第5次総合計画があるが、合併で21万人に拡大した時に合併した13地域がどう組み込まれるか。また、地域別の構想の書き方は非常に重要であると私も認識している。そこはしっかりと整合を図るよう事務局に願います。  
・この部分については次回以降に議論できるので、時間の関係もあり、1番目の議事については以上とし、他に何かあれば「意見提出シート」を事務局に提出いただくこととする。

#### イ 基本計画の前提条件について

上越市の将来人口推計について...資料 4

(渡邊会長): それでは、次第(2)の基本計画の前提条件について、事務局の説明を聞きたい。

(池田副課長): - 資料 4に基づき説明 -

- ・先ほど小田委員から人口減少、若年層への対応がこれから欠かせない課題であるというご指摘もあったが、まさに将来人口がどうなっていくかを事務局でシミュレーションした結果が資料 4である。
- ・人口はすべての事業のベースとなり、とりわけ都市計画的な部分に大きな影響を及ぼすものであるため、十分な検討を加えて方向性を固めていきたい。
- ・今回推計したのは、いろいろな推計方法があるが、コーホート要因

法に基づく将来人口を推計した。そのコーホートというのは集団という意味であり、コーホート要因法とは、出生の状況、人口の移動率、あるいは生存率をそれぞれ仮定して、その仮定に基づき計算した推計値である。推計のパターンとして4つ挙げた。

- ・現在の人口は20万8,082人であるが、出生率が現状維持で続きかつ今後転出が超過するといった条件で計算したのがパターン1であり、計画期間の直近の10年後では、19万7,060人、全体で5.3%人口が減っていく。
- ・パターン2は、出生率が現状のままと仮定しつつ、純移動率、すなわち出て行く人と入ってくる人のバランスでは入ってくる人のほうが多いといった設定であり、10年後の人口は20万930人、全体としては3.4%の減。
- ・パターン3は、出生率が現在の実績値よりも上がっていくだろうと仮定して、かつ転出が超過するといった設定であり、10年後の人口は19万8,697人、4.5%の減。
- ・パターン4は、現状よりも出生率が上昇し、純移動率は入ってくる人が多いという設定であり、10年後の人口は20万2,613人、2.6%の減というような推計結果になっている。
- ・それぞれの推計結果に基づく総人口の推移や年齢3区分別の人口の割合、あるいは平成17年度を基準とする増減数については、資料 4-1にグラフでまとめてある。
- ・今後、総合計画における人口の捉え方として、このような単純推計に基づくすう勢人口を採用していくのかどうか。どのような方向で進めるべきか。委員の皆様のご意見を伺えればと思っている。
- ・ちなみに周辺の状況としては、例えば、妙高市では10年後に11%くらい減っていくという予測の中で、10年後の計画人口を平成17年から1千人弱の減、数%の減という形で目標人口的な捉え方をしているところもある。そのような方向でいくべきかどうかについてもご意見をいただければと思う。

(渡邊会長): 残された時間が少ないため、(2)の議事は、次回への継続審議とさ

せていただき、本日は、簡単な質問、要望をいただくこととしたい。地方都市は全部このような減少パターンになっているが、減った人達はどこへ行くのか。すべて東京に収まるとは思えない。私は日本全体の構造を考えないと大変な問題になると思うが、志村委員はどう考えるか。

(志村委員): それは非常に大きすぎる問題である。一方で、上越市として先ほどの説明にあった目標的なもの。どういうふうを考えるかという資料が必要かもしれない。

(渡邊会長): 例えば60歳でリタイヤした人の中に、若くして上越を出て戦士として働き、安らぎを上越で求めるといふ動きもある。健康で安全でしかも教育制度もよく出来ていて老後を安心して暮らせるまちが、非常に魅力ある中核都市と言えるのではないか。私たちの大学でもそれを支援したいと思ひ今動いているし、希望と健康そして教育のまちを提案している。この人口の推移は大きな問題を含んでいて当然に働く場所も創出しなければならない。これは議論が相当出てくると思う。

(田中昭平委員): 高齢化と人口が減少する傾向は資料で分かるが、その中に経済関係の資料がほしい。やはり働く場所がない。法人税など税収が減少し、借金も重なってくる。市民の生活と経済の安定性、上越は豊かなまちであるための条件など経済の面も市民に分かりやすく出してほしい。

(村椿副会長): 資料 3-2の4ページの一番下に国の18年度の財政状況があるが、上越の豊かさを考えた場合、何が豊かかといつて財政が豊かであれば、人が入ってくる要素はたくさんあると思う。財政内容の良くない所に人は来ないのではないか。夕張でも市民が出て行くことを考えている。やはり財政基盤がしっかりしているということは大きいと思う。現状はいい状態では示せないかもしれないが、数字が一番見やすいので、上越市の現状を4ページのような図で表してほしい。

(渡邊会長): それは是非、事務局に用意してもらいたい。次回はそれらの各委員から要望のあったデータを事務局から用意いただき、人口推計などの継続審議をトップに置きながら審議に入ることとする。

・それでは終了時間になったので、本日の審議会はこれで閉じる。



## その他

(高橋課長): 事務局から連絡させていただく。先ほど会長からもお話があったが、本日の議論の中で言い残した事、あるいは後日にお気づきの点があれば「意見提出シート」により、2月7日(水)までにご提出いただきたい。

- ・ 次回の審議会では、本日要望のあったデータ等を提供しつつ、ブラッシュアップした内容で継続審議いただくとともに、基本構想の素案を提示させていただく。あわせて土地利用、それから地域別構想の方向性についても皆様からご意見をいただく予定である。
- ・ 次回の審議会の日程については、改めてご案内させていただく。

## 9 問合せ先

企画・地域振興部 企画政策課 総合計画策定チーム

TEL : 025-526-5111 (内線 1852)

E-mail : kikakuchosei@city.joetsu.lg.jp

## 10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。